

vol. 02

令和7年度 第2号
(年間4回発行 通巻第176号)

組合活性化情報 中央会とくしま

特集

2025年版

中小企業白書・小規模企業白書のポイント

徳島県中小企業団体中央会 <https://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 02

令和7年度 第2号
(年間4回発行 通巻第176号)

特集

2025年版
中小企業白書・
小規模企業白書のポイント 2



有限会社竹内水産

4

ちよつと
ええもん!

組合産品紹介

徳島県味噌工業
協同組合

7



情報連絡員レポート

令和7年7月の景気動向

9



青年部コーナー

10

- ◎青年部活動トピックス
徳島県中小企業青年中央会
・令和7年度第2回理事会 他



女性部コーナー

11

- ◎女性部活動トピックス
とくしまレディース中央会
・第2回理事会
・会員募集中!



会員ホットニュース

12

- ◎徳島県デントシート工業組合
工業組合における広域連携協定(連携事業継続力強化計画)を締結
- ◎協同組合徳島総合流通センター
夕暮市場(ユウグレマーケット)を開催
- ◎徳島県生コンクリート工業組合
吉野川フェスティバルでボランティアを実施
- ◎徳島県木材買方協同組合
移動木工教室を開催



中央会トピックス

14

- ◎大樹生命保険株式会社と連携協定を締結

ぶらっと寄ってみませんか?

徳島コーヒーワークス
(有限会社オハラ)

15

編集
後記



表紙絵

作者:徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹 氏

タイトル:「秋の徳島中央公園」

旧徳島藩主蜂須賀公の居城跡に開設した公園です。1939年に開設して以来今まで身近なレクリエーションの場として親しまれています。桜の名所で花見の時期などになると多くの人で賑わう他、4～7月にかけては8月の本番に向けて阿波踊りの練習が公園の各所で行われています。



特集

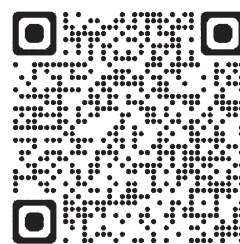
2025年版 中小企業白書・ 小規模企業白書のポイント

ここがポイント



中小企業庁から2025年版中小企業白書・小規模企業白書が発表されました。中小企業・小規模事業者は、物価高や金利上昇、人手不足といった厳しい環境に直面しています。こうした状況乗り越えるためには、設備投資やデジタル化、適切な価格設定による生産性向上、小規模事業者の差別化戦略や経営の自走化が重要です。本白書では、経営者の「経営力」、人材確保や働き方改善など人材経営の強化、地域課題解決に資する取組など、多面的な視点から分析が行われています。

本誌では、そのポイントを紹介します。詳細については、右記中小企業庁ホームページでご参照ください。



<https://www.chusho.meti.go.jp/pamphlet/hakusyo/index.html>

1. 2025年版中小企業白書・小規模企業白書の方向性

- 円安・物価高の継続や「金利のある世界」の到来による生産・投資コスト増、構造的な人手不足など、中小企業・小規模事業者が直面する状況は依然として厳しい。一方で、地域経済・日本経済全体の成長の観点からも、雇用の7割を占める中小企業・小規模事業者への期待は大きく、地域コミュニティ・経済・文化・課題解決の担い手として、地域経済基盤を維持し、地域のニーズに細やかに対応する役割も期待されている。
- 激変する環境において、中小企業・小規模事業者が課題を乗り越え、成長・持続的発展を遂げるに当たっては、経営者が、自らが置かれている状況と方向性を把握し、適切な対策を打つ力が必要。本書では、この「経営力」に焦点を当て、事例を交えつつ分析を行った。

2. 2025年版中小企業白書・小規模企業白書のポイント

(1) 中小企業・小規模事業者の動向

- 円安・物価高の継続や30年ぶりの金利上昇は、輸出より輸入比率が高く借入金依存度も高い中小企業・小規模事業者に、利益下押しのリスク。
- 2024年の春季労使交渉では、約30年ぶりの賃上げ率を達成も、大企業との差は拡大。労働分配率は8割に近く、更なる賃上げ余力も厳しい。一方で、人手不足は依然として深刻な状況にあるため、

人材確保のために業績改善を伴わない賃上げも増えている。

- こうした状況を踏まえれば、コストカット戦略は限界を迎えている。物価、金利、人件費の上昇と、構造的な人手不足に直面する今こそ、積極的な設備投資・デジタル化と、適切な価格設定・価格転嫁の推進により、付加価値や労働生産性を高める経営に転換していくことが必要。

(2) 中小企業・小規模事業者の成長・持続的発展に向けて有効な取組

- こうした課題を乗り越え、成長・発展を遂げるに当たっては、経営者が、自らが置かれている状況と方向性を把握し、的確な対策を打つ力としての「経営力」が重要。本白書では、「経営力」について、以下3つの観点から分析を行った。
 - A. 個人特性面：異業種・広域ネットワークで他の経営者と交流し、学び直しに取り組む経営者の成長意欲の高さは業績向上に寄与。
 - B. 戦略策定面：経営計画策定・実行、差別化や市場環境を意識した適切な価格設定を行う戦略的経営は業績向上や賃上げ・投資を促進。
 - C. 組織人材面：経営理念、業績・経営情報の共有を重視するオープンな経営は業績向上に寄与する。賃上げ、社内コミュニケーション円滑化、働き方・職場環境改善など、従業員を大切にする人材経営は従業員の確保・維持に貢献。
- その上で、中小企業では、売上高規模ごとに異なる「成長の壁」の打破が必要となる。成長の加速段階では、経営者にはないスキルを持つ補完型人材の確保や、経営者の職務権限分散による一人経営体制の克服が重要であり、売上高100億円以上では、拡大する組織を経営者と共に支える経営人材やDX人材の確保が重要。また、企業規模拡大には、積極的なM&Aやイノベーション、海外展開の推進が有効な手段となり得る。
- 小規模事業者では、事業規模・商圏に限られる中、差別化による独自の強みの創出が重要。また、経営計画策定等を通じ、経営者のリテラシーを高め、経営の振り返りと改善のサイクルを通じた「経営の自走化」を目指すことも重要。加えて、地域の社会課題解決事業を担うビジネスの推進も期待されている。

引用：2025年版中小企業白書・小規模企業白書概要（中小企業庁）



有限会社竹内水産

中央会では、平成24年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

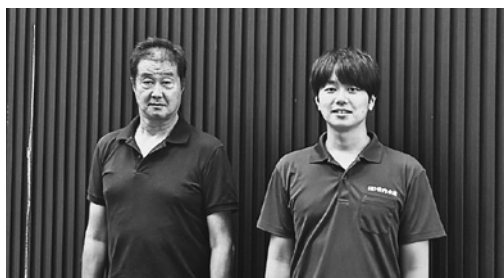
第42回目は、ものづくり補助金事業（令和6年度）に取り組まれた『有限会社竹内水産』をご紹介します。同社では、水揚げ直後のシラスを迅速に加工し、徹底した衛生管理によって鮮度と味わいを守る取り組みを続けています。

今回は、代表取締役の竹内正氏、常務取締役の竹内昌平氏からお話を伺いました。



1 有限会社竹内水産の誕生の経緯、事業内容および特徴を教えてください。

紀伊水道には、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などがあり、四国山地の有機物が運ばれて来るために、魚介類の種類や量が豊富です。さらに、ワカメ、ヒジキなどの海藻類も豊富です。その海域に面した椿泊湾沿いには昔から私を含め、漁師はたくさんいました。しかし、獲れた魚介類の販売は、古の時代から漁港として賑わっていた由岐や木岐の仲買人に任せていたために儲けに繋がっていませんでした。社長の私が昭和58年、24歳のとき、良い商品を安くお客様に届けようと一念発起しました。これが当社の始まりです。



代表取締役社長 竹内 正氏
常務取締役 竹内昌平氏

徳島は大阪を中心とした関西圏に目を向けていますが、高知は東京圏です。たまたま高知の方と知り合いになり、東京への事業展開を教えてくださいいただきました。築地市場にシラスやハモなど、季節ごとに姿を変える徳島の海の幸を、鮮度そのままに出荷を計画しました。

その一つが、日本航空、徳島県と一緒に頑張って挑戦した、日本で初めてのシラスの空輸です。その際の合言葉が、今もトラックに描かれている『飛べ、シラス』というデザインです。徳島のデザイン会社如月舎に依頼し、空を飛ぶシラスをイメージして仕上げていただきました。トラック輸送では10トン車を使用できるため、大量輸送にも対応可能で、鮮度を守った輸送を実現しています。日本国中が右肩上がりの時代であったからできたと思います。



2 ものづくり補助金事業では令和6年の18次で「高品質かつ安定供給体制構築に向けた設備投資と新市場開拓と拡大」としたテーマで採択されました。その時の背景と補助金事業が果たした役割をご説明ください。

私たちが商品づくりで大切にしている考え方は、魚の美味しさをそのまま届けることです。その基本の一つは、魚の細胞にダメージを与えないことです。例えば、カタクチイワシの稚魚であるシラスを網で捕獲しても船中で直ちに氷でシメ、水揚げからわずか1分以内に釜茹でし、すぐに冷却する必要があります。さらに、釜の清掃など徹底した衛生管理を図るとともに、他の種類の小魚の混入を防ぐことにより、常に安定した品質を維持しています。この事業では、これらの課題を改善することを目的としました。

シラスを鮮度そのままに冷凍できる体制を整えるために、急速冷凍機を導入し、さらに冷凍庫やフォークリフト、電動扉などを整備することで、作業効率と衛生管理の強化を図りました。出荷量の増加では、網船へのソナー設置を行い、漁獲量の拡大と安定を図りました。

これらの取り組みにより、B to BだけでなくB to Cへの販路拡大も可能となり、県内外の市場やスーパー、飲食店からも高い評価を得



急速冷凍機

ることができました。補助金による設備投資を通じて生産体制の基盤が構築できたことで、今後さらに品質の高い商品を提供し、竹内水産ブランドの認知度向上に繋がれると考えています。



電動扉

3 御社は、これまで約40年にわたって種々の海の幸の商品化や販売先の拡大を、地域の人たちと共に努めてきました。地域とのつながりで意識していることはありますか？

徳島の海に育ててもらった会社だからこそ、地域への恩返しを大切にしています。学校給食への魚の提供や地元イベントへの協力を通じて、子どもたちに魚食文化の魅力を伝える活動を続けています。特に若い世代に魚をもっと身近に感じてもらうことは、私たちの大きなテーマです。試食会の開催や調理方法の提案、家庭でも採り入れ易いレシピの紹介などを通じて、魚を食べる楽しさを広げる工夫をしています。いまでは、椿泊湾に面した事務所から、出船状況を見て、漁獲量を判断しながら釜茹で等の準備をしています。

また、当社では自社ホームページを通じたネット販売を行っておりますが、養殖には取り組まず、その日に獲れた天然の魚を直接、取引先や市場に届けるスタイルを守っています。だからこそ、魚が持つ本来の旨みをそのまま味わっていただけると自負しています。

漁師さんや市場との信頼関係を築き、長年



椿泊湾風景

培った目利きによって“竹内水産なら間違いない”と評価いただいていることが、私たちの誇りです。

4 企業は人であると言われます。社員教育や職場づくりで大切にしていることをご披露いただけますか。

当社の社員教育方針はいわゆる“On the Job Training: (OJT)”です。魚を扱う仕事は、書類やマニュアルだけでは身につけません。現場で魚を見て、触れて、匂いを感じることでしか学べないことがたくさんあります。

“実際にやって覚える”ために、新人には必ず先輩が一对一で付き、仕入れから加工、出荷までの一連の作業を共に行いながら、目利きのコツや旨味の保持などを、適切なタイミングで身体に覚えてもらいます。最初は難しく感じても、実際に手を動かし、経験を積むことで、自らの判断で魚を見極められるようになります。その成長を支え、導くことが、私たちの大切な役割だと考えています。

5 魚介類においては養殖事業が盛んになってきました。漁獲、加工、そして販売まで一貫した事業に携わっている人から見て、今後の水産業の方向性について何かコメントをいただけますか。

これまでに培ってきた仕入れ力と品質管理で、北海道から沖縄まで全国展開を図ることができました。これらの強みを活かしつつ、新たな商品開発やさらなる販路拡大に挑戦したいと考えています。加工品や冷凍品のブランド化を進め、徳島の魚を全国へ発信することが目標です。

当社は自社ホームページによるネット通販を行っており、現在は楽天などの大手モールには出店していませんが、大手プラットフォームの活用も将来的な選択肢として検討しています。とはいえ、直接お客様や取引先と向き合い、顔が見える関係の中で鮮度と品質を守ることこそ当社の価値だと考えています。

環境の変化に柔軟に対応しながらも、「天然の魚をその日のうちに届ける」という原点を大切に、徳島の海が持つ可能性をさらに引き出していきたいと考えています。急速冷凍の活用や

養殖による水産物出荷の安定化は進むと考えます。新しいテクノロジーを取り入れて新しい価値を創出し、若い世代に引き継がれていくと思います。

しかし、地球規模の温暖化で自然現象は変化しています。水温の上昇によりシラスの漁期や漁獲量が不安定化し、黒潮の蛇行や磯焼けによって獲れる魚種の変化や減少も見られます。今後、これらも考慮する必要があります。

6 最近は新型コロナ、地球温暖化、放射性汚染水放流対応、米国トランプ政権の関税、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル対応など、国際環境は大きな問題に直面しています。人的影響が大ですが、御社にとって何か影響はありますか。

世界情勢や自然環境の変化は、私たちの事業にも確実に影響を及ぼしています。米国の関税政策や中国の輸出規制は間接的に打撃となると思います。国際情勢は物価高騰をもたらし、燃料費や電気代といったインフラコストが大きな負担となっています。自然現象の面では、水温の上昇によりシラスの漁期や漁獲量が不安定化し、黒潮の蛇行や磯焼けによって獲れる魚種の変化や減少も見られます。椿泊は天然わかめの産地として貴重ですが、そのわかめさえ減少しているのが現状です。こうした厳しい状況に直面しながらも、私たちは地域と共に知恵を絞り、持続可能な漁業と安定供給を守り抜くために挑み続けています。

企業の概要

- 企業名 有限会社竹内水産
- 代表者 代表取締役 竹内 正
- 業 種 水産加工業
- 従業員 27名
- 設 立 1983年4月1日
- 所在地 徳島県阿南市椿泊町小吹川原8-2
- 電 話 0884-33-1148
- URL <https://takesui.com>

ちよつと
ええもん！

組合産品紹介

⑦

本会会員組合や傘下組合員企業が製造・販売している、今“イチ押し”の組合産品をご紹介します。

今回のちよつとええもん！組合産品は

徳島県味噌工業協同組合の

御膳みそ

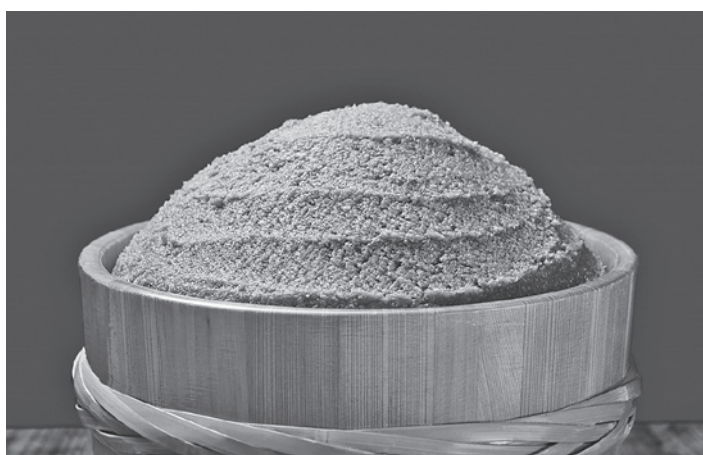
をご紹介します。

●御膳みその歴史と由来

徳島の食文化において、味噌は昔から家庭の味を支える大切な調味料でした。味噌汁はもちろん、郷土料理や日々のおかずに欠かせない存在です。そんな伝統を守り続けてきたのが、徳島県味噌工業協同組合の組合員 9 社が手がける「御膳みそ」です。

御膳みその起源は江戸時代。藍作の裏作として大豆が栽培され、鳴門の製塩業で得られる良質な塩とともに、味噌づくりが盛んになりました。

1587(天正15)年、徳島藩主・蜂須賀家政公の食膳に供された味噌は大変気に入られ、その後庶民へも広がります。これが「御膳みそ」と呼ばれる由来です。以来、地域の人々に支えられながら徳島独自の味わいとして受け継がれてきました。



焼き味噌

●御膳みその特徴

「御膳みそ」は、一般的な辛口みそに比べて甘みと酸味が強く、渋みや苦みが加わった深みのある味わいが特長です。米の使用割合が多いため旨みと甘みがしっかり感じられ、爽やかな香りがあるので、味噌汁はまるやかで優しい仕上がりに。野菜や魚料理にもよく合います。

令和7年3月18日には、地域の特産品の品質を守るGI(地理的表示)登録を取得しました。

これにより、産地ブランドが保護され、模倣品の防止や生産者の利益向上につながるだけでなく、消費者にとっても安心して選べる“本物の味”として保証されました。徳島県内では「木頭ゆず」「阿波尾鶏」「徳島すだち」に続き、

御膳みそが登録されたことは大きな誇りです。

また、徳島の食文化に根ざした「焼き味噌」や「おかず味噌」としても長く親しまれています。深い味わいと歴史を持つ御膳みそ。日々の料理に取り入れることで、食卓をさらに豊かにしてくれます。ぜひ一度ご賞味ください。

●組合員（9社）のそれぞれの御膳みその特徴

井上味噌醤油株式会社 — 手造り糀と100年木樽で仕込む生味噌。  住所：〒772-0013 鳴門市撫養町 岡崎字二等道路西113 TEL：088-686-3251	株式会社魚井商店 — 蜂須賀公由来の製法を継承、自社製麹を使用。  住所：〒770-0012 徳島市北佐 古二番町1-9 TEL：088-633-5713	かねこみそ株式会社 — 低温熟成で甘みと芳醇な香りを引き出す。  住所：〒771-1201 板野郡藍住 町奥野字乾81-2 TEL：088-692-2611
有限会社志まや味噌 — 手作業の麹づくりで丁寧に仕込む老舗。  住所：〒770-0802 徳島市吉野 本町5-47 TEL：088-652-7356	有限会社鳴門屋 — 大寒に仕込む杉樽蔵造り、深い旨味と香り。  住所：〒779-3213 名西郡石井 町藍畑字高畑556-2 TEL：088-674-0837	福寿醤油株式会社 — 創業200年、天然醸造と工場見学で味噌文化を発信。  住所：〒779-0303 鳴門市大麻 町池谷字大石8 TEL：088-689-1008
福田商店 — 寒仕込みで熟成させた芳醇な赤味噌。  住所：〒772-0021 鳴門市里浦 町里浦字坂田163 TEL：088-686-2512	ヤマク食品株式会社 — 麹歩合17歩、漬物から発展した独自の味噌づくり。  住所：〒771-1298 板野郡藍住 町奥野字乾170-1 TEL：088-692-2421	株式会社吉本商店 — 低温発酵で香りとコクを重視した味噌。  住所：〒773-0016 小松島市中 郷町字桜馬場41 TEL：0885-32-0025

【御膳みそ全般に関するお問合せ先】

徳島県味噌工業協同組合

〒770-0943 徳島市中昭和町一丁目95番地の1〔葵ハイツ 2F〕

TEL：088-652-6472

HP：https://tokushima-gozenmiso.jimdofree.com

Instagram はこちらから⇒



令和7年7月

情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員49名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

《全体の景況》

7月是一部で景況持ち直しの動きがあったが、物価高騰や賃上げ等各種コストの上昇による収益低迷に苦慮しているという報告が、引き続き多数寄せられた。また、猛暑や小雨といった異常気象の影響が深刻化している。

【製造業】

〈食料品〉

【味噌】生産量は前年並み。出荷量は4月以降低調に推移。原価高騰のカバーのための販売単価の見直しが必要の一つとなっている。また、6月中旬以降の少雨と記録づくめの猛暑が出荷量減少に大きく影響。

〈繊維・同製品〉

【縫製】仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない状態が継続。工程設備については、日本国内で調達不能の機械のトラブルが続いている。老朽化した設備を補修しつつ維持している状況。同業界での共通問題と化しており、政府としての対策が必要と思う。人材確保手段として、特定技能の縫製業の資格を申請中。

〈木材・木製品〉

【製材】戸建て住宅が建たず、単価は上がらない。建築基準法改正により稼働率に影響。今年は丸太が特に少なく、極端な暑さも山の仕事に影響している。

【製材】住宅着工の減少により例年になく厳しい。

【木材】住宅着工減、原木減、コスト高、暑さと厳しい。

【木材】7月に入っても市町村から建築確認の許可がなかなか下りない。木造住宅の新築需要が減りそう。

〈印刷〉

【印刷】毎年であるが7月は入稿が急減。8月の阿波踊りを始めとする行事やイベントから需要を引き出したい。余裕がある時期だからこそ営業活動に積極的に取り組みたい。

【印刷】7月に入っても明るい材料は少なく苦しい。依然として紙離れが止まらない。県、市の入札に関して、今まで入札に参加していなかった企業が無茶な金額で落札している状況もあるようだ。

〈窯業・土石製品〉

【生コン】今年度はここまで民間特需工事のおかげで昨年度と比べて一時的に出荷量が増えている。それが一段落した後は出荷量に影響が出そうだ。

【生コン】7月の出荷量は対前年同月比で横ばい。新規大型工業工事の減少、資材費高騰、現場監督不足により予算執行が進まず先行き不透明。

〈鉄鋼・金属工業〉

【鉄鋼】業況感は緩やかに回復しつつあり、売上および設備操業度にやや回復傾向あり。ただし、依然として人材不足の課題が残る。今後も厳しい経営環境が続く予測。

【ステンレス】景況感に大きな変動なし。海外需要もあるが、米国の関税政策による先行き不透明感あり。国内では、消費減速による顧客メーカーの設備投資意欲への刺激減少が懸念される。

〈一般機器〉

【機械金属】一部景況感の持ち直しの動きが見られるが、引き続き、コストの高騰、政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として課題。

【非製造業】

〈卸売業〉

【食糧卸】新米(令和7年産)の主食用作付が6年産に比べ56万トンほど増える見込みだが、猛暑と水不足で作柄の低下が見込まれる。

〈小売業〉

【ショッピングセンター】売上・客単価は微増、客数は減少。食品は堅調に推移。衣料・住居関連は若干落ちている。

【ショッピングセンター】組合員店舗で昨対を超えたのはわずか1店舗で7月も厳しい月となったようだ。景気の変動にうまく対応できていることが安定感に繋がるようだ。

【電気機器】連日の猛暑でエアコンの動きが順調。他商品は買換需要を中心に大きな変化なし。

【量小売業】猛暑の中、仕事があってもなくても苦しい。新築とリフォームが後半になってきた。個人の表替、営業用は少なかった。見積り依頼は数力所あった。

〈商店街〉

【徳島市】暑さでなかなか人が出てこない。キャッシュレス決済やポイント還元事業でコード決済が多かった。

【徳島市】飲食店は盛況のようだが物販に関して売上高は改善されていないようだ。

〈サービス業〉

【自動車整備】7月度の自動車登録状況は、登録車の新車販売台数のみ前年を下回ったが、中古車販売台数は増加。軽自動車も新車・中古車販売台数ともに前年を上回った。個人消費の低迷が新車販売市場でも顕在化したようだ。

【土木建築業】人員増加(企業努力)による設備追加で電子機器が増えた。雇用人員は設計人数が減、配置人員は増。現場労働者・技術員不足により業務は忙しい。

【ビル管理】人材不足が引き続き課題。働きやすい職場環境を整備中。外国人労働者の支援体制強化にも取組中。

【広告業】そもそも受注が少ない。

【旅行業】収益が増加と悪化で半々。コロナ禍の無利子での借入の返済が現況で大変厳しく、資金・物価上昇で資金繰りが困難という声がある。また、旅行業登録の更新が基準資産において難しいという会員も多数。

〈建設業〉

【鉄骨・鉄筋工事業】トランプ関税や物価上昇による先行き不透明から物件の中止、延期が出ている。建物の見積もりは少なく、価格にも注意が必要。工程管理をしないと利益を出すのが厳しい。

【建設業】発注工事が増加。建設資材価格の高騰や人件費が上昇するとともに、不況型倒産が増加している。

【板金工事業】工事件数は少ないまま。事業所ごとに受注量の差あり。公共工事も例年より少ない状況。

【電気工事業】徳島県内7月分の戸建住宅新築件数は138件で前年比91.4%。

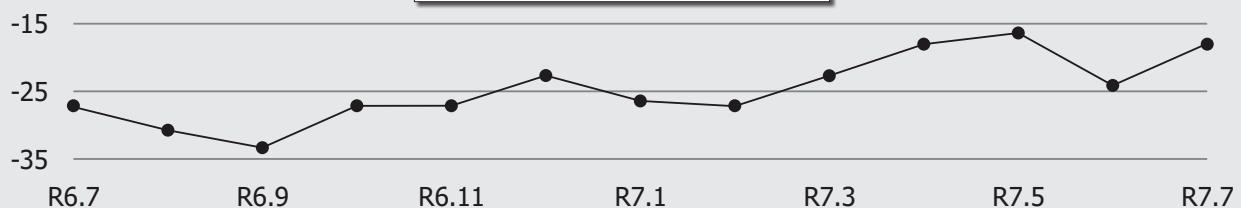
〈運輸業〉

【貨物運送業】7月に入り荷物の減少が見え始めた。燃料価格・物価高の高騰、人材不足により荷動きが低迷しているとの意見あり。長距離運送会社の撤退も相次ぐ。運賃指数が上がっているが、荷動きが悪く値下げを要求されたという話も聞く。

【貨物運送業】仕事の件数を増やすため多少値を下げて受けているが、物流自体が増えてきている印象。燃料含む必要経費が下がってくればありがたい。

【貨物運送業】青果物、飲料の荷動きは良かった。ガソリンの暫定税率廃止でマスコミ等はにぎわっているが、運送業は大半が軽油利用のためガソリンとの価格差がなくなりメリットが感じられない。米国関税の影響も懸念される。

業界の景況(DI)の推移



※DI値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー

青年部活動トピックス

◇ 令和7年度 徳島県中小企業青年中央会 第2回理事会 ◇

令和7年7月17日(木)、徳島県中央会会議室に於いて「令和7年度徳島県中小企業青年中央会第2回理事会」を開催。以下記載の議案について審議され、すべて原案通り承認・決定されました。また、株式会社日本トリム高知支社の西野営業係長をお招きし、四国ブロックUBAとしての検討課題となっている電解水素水について、管理医療機器から生成する特性や徳島県における導入事例などについて解説いただく時間を設け、様々な意見交換も行われました。

【議題】

- 第1号議案 令和7年度の活動スケジュールについて
- 第2号議案 全国UBA通常総会等報告
- 第3号議案 四国ブロックUBA通常総会報告
- 第4号議案 徳商との無料HP作成事業の件
- 第5号議案 組合青年部研修・研究会事業の件
- 第6号議案 その他



◇ 徳島県中小企業青年中央会 SNSのご案内 ◇

青年中央会では、日々の活動の様子をSNSにて情報発信しております。より多くの皆さまに活動を知っていただけるよう更新して参りますので、ぜひ下記QRコードからご覧ください！



★今後のスケジュール★

- 四国ブロック交流会議（令和7年10月21日予定 高知県）
- 全国青年中央会 全国講習会（令和7年11月14日 岩手県） 他



女性部コーナー

女性部活動トピックス

とくしまレディース中央会 令和7年度第2回理事会を開催

令和7年8月26日(火)、徳島県中央会会議室において、「とくしまレディース中央会令和7年度第2回理事会」が開催されました。本理事会では、以下の提出議案について審議を行い、原案通り承認・決定されました。なお、令和7年度通常総会後、新役員体制による初めての理事会となります。

- 第1号議案 全国レディース中央会 令和7年度通常総会の報告について
- 第2号議案 レディース中央会全国フォーラム in あいち・視察研修について
- 第3号議案 その他

～とくしまレディース中央会 会員募集中！～

女性の交流とスキルアップを応援する「とくしまレディース中央会」では、新たな会員を募集しています。バイタリティあふれる天野会長をはじめ、他県の女性部との交流やさまざまな活動を積極的に展開しています。これにより、地域を越えたネットワークの構築や情報共有を促進し、会員の皆さまのスキルアップや交流の場を広げています。今こそ、自分を変える絶好のチャンスです。私たちとくしまレディース中央会の仲間とともに、新しい一歩を踏み出してみませんか。女性の方ならどなたでもご入会いただけますので、お気軽にお問い合わせください。

活動内容の紹介



リレーマラソンへの参加



全国フォーラムへの参加

❀とくしまレディース中央会の概要❀

活動目的：徳島県内の中小企業組合の女性役職員、中小企業組合に所属する企業の女性役職員等をもって構成し、女性特有の感性や英知を結集して女性の新たな活躍を推進すると共に業界の振興発展に寄与することを目的とする。

活動内容：①会員ニーズに応じたセミナーの開催②交流会の開催③全国レディース中央会交流事業への参加④鳥取女性中央会との交流

会 員 数：33【法人会員 18、個人会員 15】

代 表 者：会長 天野 多栄子【有限会社天野鉄工所 取締役】

年 会 費：法人会員：5,000円、個人会員：3,000円

お問合せ先：徳島県中小企業団体中央会 連携推進課 宮本まで (Tel 088-654-4431)



会員ホットニュース

工業組合における広域連携協定(連携事業継続力強化計画)を締結 ～ 徳島県テントシート工業組合 ～

徳島県テントシート工業組合は、このたび中四国ブロックにおいて広域連携協定を締結しました。大きな災害が発生すると、被災地だけでは復旧が難しいため、県を越えて助け合う仕組みづくりが求められています。

今回の協定は、まず岡山県が締結し、続いて徳島県が2番目に加わったもので、災害時には資材や人員を相互に支援できる体制が整いました。今後は、能登半島地震の経験をふまえ、東海や北陸のブロックとの連携も進めていく予定です。こうした取り組みは、地域全体の防災力を高める大切な一歩となります。

また、平常時からの情報交換や研修を通じて、組合員一人ひとりの意識向上にもつながります。中央会としても、こうした活動がさらに広がり、安心・安全な地域づくりに貢献していくことを期待しています。



漆川智之理事長(左)と野々宮俊夫前理事長(右)

夕暮市場(ユウグレマーケット)を開催 ～ 協同組合徳島総合流通センター ～

令和7年5月28日(水)協同組合徳島総合流通センター(徳島市川内町)において、夕暮市場(ユウグレマーケット)が開催されました。

組合として初めての試みでしたが、飲食や雑貨など30店舗が参加、約900人の来場者があり大盛況となりました。

来場者からは「川内地区でこのようなイベントを開催してもらい、とても嬉しい。」との声が聞かれ、組合からは「団地組合の強みを活かし、地域住民との交流や認知度向上を。との思いで開催したが、想像以上の成果で驚いている。またの開催を望まれているので是非検討したい。」とのことでした。



夕暮市場(ユウグレマーケット)の様子

吉野川フェスティバルでボランティアを実施 ～ 徳島県生コンクリート工業組合 ～

徳島県生コンクリート工業組合の青年部と女性部は、7月26日(土)に徳島市で開催された「吉野川フェスティバル」に合同で参加しました。今回の参加は2年ぶり2回目。青年部7名・女性部4名・事務局1名の計12名がブース運営に携わり、子ども145名を含む約250名の来場者と交流しました。

会場ではミキサー車展示や親子で楽しめる手形模型づくり体験を実施。また、ミキサー車ドラムを使ったあみだくじでは、メーカー提供の約1,000点や会員工場製作のモルタル人形・キーホルダーなどの景品が大人気で、子どもたちは1人4～10個の景品を持ち帰りました。

イベント終了後は合同で会場周辺の清掃活動も実施。青年部・女性部が力を合わせることで、地域貢献と次世代への発信につながる活動となりました。



イベントを楽しむ親子



あみだくじの様子

移動木工教室を開催 ～ 徳島県木材買方協同組合 ～

徳島県木材買方協同組合では、令和7年8月31日(日)、ふれあい健康館のピロティーにて「移動木工教室」を開催しました。この教室は、昭和の初回開催から数えて40年目を迎える節目の事業です。

毎年7月21日から11月16日にかけて県内各地で約9回開催される予定で、延べ400名以上の小学生と保護者が参加されます。徳島県産の間伐材を活用し、児童が椅子や本立て、巣箱などを製作することで、木の温もりや木造住宅の良さ、さらには森林を守ることの大切さを体験的に学んでいます。

組合では「かつて参加した子どもが大人になり、自分の子どもを連れてきてもらえるような活動を続けたい」との想いを込め、取り組みを継続。今後は神山森林公園にて小学生を対象とした巣箱づくりも予定されています。



木工教室の様子



大樹生命保険株式会社と連携協定を締結

徳島県中小企業団体中央会は、2025年7月28日、大樹生命保険株式会社徳島支社と「活力あふれる地域社会の創出」を目指す連携協定を締結いたしました。締結式では、当会 布川徹会長と大樹生命保険株式会社徳島支社 金谷堅二支社長が協定書に調印し、力強く協力関係を築く第一歩を踏み出しました。

今、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、経営革新や新事業の展開、さらには人材確保・事業承継といった課題への対応が急務となっています。当会は、中小企業者・組合組織の唯一の支援機関として、これまで経営基盤の強化、新たな成長産業の創出や雇用問題への対応など、幅広い支援に取り組んでまいりました。

今回の協定締結により、大樹生命の持つ専門性や幅広いネットワークと、当会の支援機能を掛け合わせることで、次のような取組をさらに強化してまいります。

- 団体保険制度を通じた安心の提供
- 地域イベントの支援による交流とにぎわいの創出
- 事業承継・後継者育成への伴走支援
- 経営課題解決や販路拡大への具体的支援



協定書に調印する様子

これらの取り組みを通じ、中小企業の持続的発展を後押しし、ひいては徳島の地域経済の活性化につなげてまいります。

徳島県中小企業団体中央会は、今回の協定を契機に、大樹生命保険株式会社との協力体制を一層強化し、地域の中小企業の皆さまが安心して事業に取り組める環境づくりと、徳島経済の持続的な発展に全力で取り組んでまいります。



布川徹会長(左)と金谷堅二支社長(右)

ぶらっと 寄ってみませんか？

徳島県で今注目の施設やおすすめスポットを、
本誌編集部が訪ねて紹介するコーナーです。

第4回目となる今回は、1990年3月にオープンし、有限会社オハラが運営する喫茶店「徳島コーヒーワークス」を訪れました。



【第4回】



徳島コーヒーワークス 山城店

徳島で長年にわたり愛され続けている「徳島コーヒーワークス」。店内に一歩足を踏み入ると、焙煎したての豆の香りがふわりと広がり、思わず深呼吸したくなる心地よさに包まれます。



ドリップパック

同店のこだわりは、「お客様第一」の姿勢と一貫した手づくり。経営者自ら世界各国のコーヒー生産地を訪ね、信頼できる農園から豆を直接買い付け。自家焙煎し、丁寧に抽出しています。

人気のドリップパックも、焙煎から充填、外装印刷まで一貫して自社で仕上げる徹底ぶり。専用の製造機も導入するこ



店内風景

●ぶらっと寄ってみませんか？

とで、誰でも手軽に本格的な味わいが楽しめると評判です。

さらにパッケージのデザインにも遊び心が光ります。徳島のデザインブランド「れもんカリヨン」が手がけた8種類のデザインはギフトにも人気。その他の商品パッケージも、デザイナーやスタッフのアイデアを活かしながらで仕上げられています。

●山城店とこのぶ店、それぞれの魅力

山城店は、コーヒーの種類が豊富なのが大きな魅力。さらに本格的なピザもおすすめで、イタリアから輸入した薪窯と粉を使い、香ばしく焼き上げています。定番4種類に加え、季節限定メニューも登場し、食事目的で訪れるお客様も多いお店です。

一方、このぶ店は明るく開放的な雰囲気が特長。フードメニューも充実しており、ランチ利用も人気。さらに地域の芸術家による作品展示が行われており、食とアートを同時に楽しめます。

両店舗とも、話し声は聞こえても会話の内容までは届かないよう設計された空間づくりで、心からくつろげる時間を提供してくれます。



イタリアから輸入した薪窯



パスタランチ（このぶ店）



マルゲリータ（山城店）

●スイーツも人気の定番

コーヒーのお供に欠かせないスイーツも充実しています。

濃厚なレアチーズケーキやスコーン、カステラはリピーター続出の定番メニュー。さらに、コーヒーゼリーをたっぷり使ったカフェジュエリーや和の素材を取り入れた白玉ソフト、わらび餅ソフトなども幅広い世代に人気です。



レアチーズケーキ



スコーン



白玉ソフト

●テイクアウト&ネット販売

店内メニューのテイクアウトは、電話やHPから手軽に注文可能。

さらにオンラインショップも展開しており、自宅でもお気に入りのコーヒー豆やお店の味を楽しめます。

日常に寄り添いながら、訪れる人に“特別なひととき”を届けてくれる徳島コーヒーワークス。今日も徳島の暮らしを、香り豊かに彩っています。

■徳島コーヒーワークス山城

所在地／徳島市山城西 1-7
営業時間／8:30～21:00 (L.O. 20:30)
定休日／火曜日
席数／74席 駐車場／27台



公式サイト: <https://www.coffeeworks.jp>
オンラインショップ: coffee-w.com

■徳島コーヒーワークスこのぶ

所在地／阿南市那賀川町小延 206-2
営業時間／8:30～18:00 (L.O. 17:30)
定休日／火曜日
席数／60席 駐車場／20台



Instagram はこちらから⇒



〔追記〕

今回の取材には、情報誌担当の清水、有限会社オハラの担当である宇山主事、そして20歳の頃からコーヒーワークスに通い続けている「コーヒーワークス愛、あふれる橋本事務局長の3名で伺いました。

小原社長に「一番大切にしていることは何ですか」と尋ねたところ、即座に「お客様第一」とのお答え。お客様が快適に過ごせる空間を創り出すために、常に最大限のパフォーマンスを発揮し続けておられる姿勢に、改めて同店の魅力を感じました。取材後にはマルゲリータピザと珈琲、そして食後にミニパフェをいただき、夕暮れの陽射しが差し込む窓際の席で、心地よいひとときを過ごさせていただきました。

小原社長、お忙しい中、取材にご協力いただき、誠にありがとうございました。



ミニソフト(コーヒーゼリーと白玉)



夕日が差し込む心地よい空間

編集 後記

◆特集では、「2025年版中小企業白書・小規模企業白書の特色とポイント」を掲載しています。主な内容として、中小企業・小規模事業者の方向性・動向についてや、中小企業が成長していくための取組などについて紹介されています。Webで詳細をご覧になれますので、是非ご参照ください。

今回の「ものづくりの達人」では、有限会社竹内水産様をご紹介します。

取材にご対応いただいた竹内正代表取締役と竹内昌平常務取締役に、会社が成長を続けてきた理由をお聞きすると「特別なことはしていない」と控えめに語られていましたが、私は、水揚げからわずか1分以内に釜茹でする徹底した鮮度管理や、徳島の海で獲れた天然の魚だけをその日のうちに届ける姿勢が、確かな信頼と高い評価につながっているのだと感じました。この度は徳島の海の魅力と、ものづくりへの熱意があふれるお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。

◆「ぶらっと寄ってみませんか？」では、徳島コーヒーワークス様をご紹介します。取材で訪れた山城店では、コーヒーの香りと落ち着いた店内の雰囲気、取材中も自然と気持ちが和らぎました。また、こだわりの自家焙煎や「お客様第一」の姿勢に、長年愛され続ける理由を改めて感じました。

今回は、小原社長に取材にご対応いただき、お店づくりへの想いやこだわりをお聞かせいただきました。お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

◆今号も発刊にあたりご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。最後までお読みいただきありがとうございました。



vol. 02
令和7年度 第2号
(年間4回発行 通巻第176号)

組合活性化情報 中央会とくしま



秋の徳島中央公園 水彩画/布川 嘉樹